

1. 題材名

園芸作業「追肥」を通して、植物を育てる喜びと協働する力を育む

2. 題材設定の理由

(1) 生徒観

高等部の生徒3名は、それぞれ異なる特性を持ちながらも、作業学習を通して社会性や自己肯定感を育み、将来の自立に向けた基礎的な力を培うことを目指しています。

* **生徒1(軽度知的障害、自閉的傾向)**

* 見通しが立つことで安心して活動に取り組むことができるため、具体的な手順や役割を明確に提示することで、主体的に作業に参加できると捉えています。

* 作業を通して、他者と協力し一つの目標を達成する経験を積むことで、集団の中での自分の役割を認識し、貢献する喜びを感じられるよう支援することが重要です。

* **生徒2(中度知的障害、多動傾向)**

* 集中力の維持に支援が必要な場合があるため、短い時間で区切った作業や、具体的な見本を示しながら、こまめな声かけや適切な休憩を取り入れることで、集中して作業に取り組むことができますと捉えています。

* 体を動かす作業を積極的に担当してもらうことで、多動傾向を肯定的に捉え、達成感を味わえるよう促すことが大切です。

* **生徒3(軽度知的障害、寡黙、手先が器用)**

* 手先の器用さという強みを活かして丁寧な作業ができるため、この強みを積極的に生かす場面を設定することで、自己肯定感を高め、自信を持って活動に取り組めると捉えています。

* 寡黙な傾向があるため、非言語的なサインを読み取り、困り感を早期に察知し、必要に応じて適切な支援を行うことで、安心して活動に参加できるよう配慮することが求められます。

これらの生徒がそれぞれの特性に応じた形で「追肥」作業に参加し、互いに協力しながら目標を達成する経験を通して、作業遂行能力だけでなく、協働性や達成感を育むことを期待しています。

(2) 題材観

「追肥」は、単に植物に肥料を与える作業にとどまらず、以下のような多角的な学習機会を提供する題材であると捉えています。

* **具体的な作業手順と目的の理解**:

* 植物の生育段階や状態を観察し、適切な時期と量の肥料を選ぶ判断力や、正確な計量・散布方法を学ぶことで、手順に沿って確実に作業を進める力を養います。

* この一連の作業は、将来の生活や就労における「指示理解」や「手順遵守」の基礎となります。

* **安全かつ効率的な作業方法の習得**:

* 肥料の取り扱い、運搬、使用する道具(スコップなど)の安全な使用法、作業中の姿勢などを学ぶことで、身体を安全かつ効率的に使う技能を習得します。

* これは、身体の動きを調整する力や、作業環境における危険を予測・回避する力を高めることにつながります。

* **責任感と達成感の育成**:

* 植物の成長という目に見える成果を通じて、自分の行った作業が環境に良い影響を与えたことを実感し、責任感や達成感を育むことができます。

* この成功体験は、自己肯定感を高め、次なる活動への意欲へとつながります。

* **協働性と社会性の涵養**:

* 複数の生徒が協力して追肥作業を進める中で、役割分担、声かけ、報告・連絡・相談といったコミュニケーションの機会が生まれます。

* これにより、集団の中で協力しながら一つの目標を達成する経験を積み、社会性を育むことができます。特に、生徒それぞれの得意なこと(例:手先の器用さ、体力)を活かして役割を分担

することで、互いに支え合う関係性を築くことが期待されます。

* **五感を活用した観察力と環境理解の促進**:

* 植物の色、葉の様子、土の状態などを五感を通して観察することで、植物の生育環境や生命に対する理解を深めます。

* これは、周囲の状況に気づき、適切に対応する力を養うことにつながります。

この「追肥」という題材を通して、生徒たちがそれぞれの特性に応じた形で参加し、将来の自立に向けた基礎的な力、特に「働くこと」の楽しさや責任、そして協働することの大切さを実感できることを目指します。

(3) 系統性

本題材「追肥」は、高等部作業学習の「園芸作業」における一環として位置づけられます。これまでの学習で培ってきた基礎的な園芸作業の知識や技能を基盤とし、より専門的・応用的な内容へと発展させる重要な段階と捉えています。

* **これまでの学習との関連**:

* これまで「種まき」「定植」「水やり」「除草」といった基本的な園芸作業に取り組んできた経験を前提とします。これにより、植物を育てることへの関心や、道具の基本的な使い方、作業の手順を守ることの重要性についてはある程度の理解があると考えられます。

* 特に、植物の生育状況を観察する力や、作業時に安全に留意する習慣は、これまでの学習で培われたものです。

* **本題材の位置づけ**:

* 「追肥」は、植物の成長を促進し、より良い収穫を得るために不可欠な作業であり、単にルーティンワークとしてではなく、植物の生育段階や状態を判断し、適切な対応を選択する「思考」や「判断」が求められる点で、これまでの作業よりも一歩進んだ内容となります。

* これは、与えられた指示をこなすだけでなく、自ら状況を判断し、対応を考える力を養う上で重要な位置づけとなります。

* **今後の学習・生活とのつながり**:

* 本題材で培われる「植物の生育状況を観察し、適切な時期に適切な対応をする力」は、将来の生活において、自らの健康管理や環境変化への対応など、主体的に課題を解決する能力の基礎となります。

* また、「正確な計量」「安全な道具の取り扱い」「効率的な作業手順の習得」といった技能は、将来の就労場面における様々な作業に応用可能な汎用性の高いスキルです。

* 協働して作業を進める中で得られるコミュニケーション能力やチームワークの経験は、社会生活を送る上で不可欠な社会性の向上に寄与します。

このように「追肥」は、これまでの学習の応用であり、将来の生活や就労における自立を支援するための重要なステップとして、系統的に位置づけられるものです。

(4) 指導観

本題材「追肥」の指導にあたっては、生徒それぞれの特性を深く理解し、個々の実態に応じたきめ細やかな支援を行うことを基本とします。特に、自立活動の視点から、生徒が主体的に活動に取り組み、自己肯定感を高めながら、将来の自立に向けた力を着実に培えるよう、以下の点を重視して指導を行います。

* **個別最適化された支援と協働の促進**:

* 生徒1(軽度知的障害、自閉的傾向)には、絵カードや作業手順書など視覚的な支援を積極的に活用し、見通しを持った活動ができるよう配慮します。また、指示は明確かつ具体的に伝え、安心して作業に取り組める環境を整えます。

* 生徒2(中度知的障害、多動傾向)には、作業内容を細かく区切り、短時間での達成感を味わえるよう工夫します。具体的な見本を示し、模倣を促すとともに、体を動かす役割を積極的に与え、集中が途切れないようこまめな声かけと休憩を適切に組み込みます。

* 生徒3(軽度知的障害、寡黙、手先が器用)には、その手先の器用さを活かせる役割(例:計量、丁寧な散布)を任せることで、自信を持って活動に取り組めるように促します。また、困り感を

表情や態度から読み取り、必要に応じて個別に声かけを行うなど、安心して自己表現できる場を提供します。

* これらの個別支援に加えて、3名がそれぞれの役割を果たすことで一つの作業を完成させる「協働」の機会を意図的に設定し、互いの存在を認め、支え合いながら作業を進める体験を重視します。

* **具体的な経験を通じた概念理解の深化**:

* 「追肥」が植物の成長にどのような影響を与えるのかを、座学だけでなく、実際に植物の生育状況を観察し、追肥前後の変化を比較するなどの具体的な経験を通して理解を深めます。これにより、「なぜこの作業が必要なのか」という目的意識を生徒自身が持てるように促します。

* **成功体験の積み重ねと自己肯定感の醸成**:

* 生徒一人ひとりの「できた」を具体的に認め、褒めることで、達成感と自己肯定感を育みます。特に、これまで苦手だったことや挑戦的な内容に取り組んだ際には、その努力と成長の過程を具体的にフィードバックし、自信へとつなげます。

* **安全教育の徹底と危機管理能力の育成**:

* 肥料の取り扱いや道具の使用における危険性を事前に指導し、安全に作業を進めるためのルールを徹底します。これにより、危険を予測し、回避する能力を培います。

これらの指導観に基づき、生徒が将来、社会の中で自立し、豊かな生活を送るための基礎となる力、特に「働く力」と「共に生きる力」を、本題材を通して育てていきます。

3. 指導計画(単元計画)

単元名: 高等部 作業学習「園芸作業」(全3時間)

本時: 第2時

【単元指導計画】

時	主な学習活動	指導上の留意点・評価
第1時	「追肥ってなんだろう? ~ 植物の様子を観察しよう~」 ・追肥の必要性について理解を深める。 ・追肥前の植物の様子を観察する。 ・追肥の時期や量、肥料の種類について確認する。 ・役割分担について話し合い、確認する。	・視覚教材を活用し、追肥の目的と植物の生育状況を関連付けて理解させる。 ・生徒の観察力を引き出す声かけを行う。 ・生徒それぞれの特性に応じた役割分担を促し、役割カードで視覚的に示す。
第2時	「協力して追肥をやってみよう!」 ・安全に配慮しながら、肥料の計量、運搬、散布、土と混ぜる作業を行う。 ・個々の役割を意識し、手順に沿って作業を進める。 ・作業中に気づいたことや困ったことを伝え合い、助け合う。	・安全指導を徹底し、道具や肥料の正しい使い方を繰り返し確認する。 ・個別支援計画に基づき、生徒一人ひとりの特性に応じた具体的な支援(視覚提示、短時間での区切り、役割分担)を行う。 ・生徒間のコミュニケーションを促し、協働的な活動を支援する。
第3時	「追肥で変わったかな? ~ 成果を確認し、次へつなげよう」	・追肥の効果を実感できるよう、比較観察の機会を設け

	<p>～」
・追肥後の植物の様子を観察し、変化について話し合う。
・今回の追肥作業を振り返り、良かった点や難しかった点、工夫できる点などを発表し合う。
・作業で学んだことを今後の生活や就労に活かせるか考える。
・使用した道具の整理整頓、手入れを行う。</p>	<p>る。
・振り返りでは、生徒一人ひとりの頑張りや学びを具体的に認め、自己肯定感を高める。
・学んだことが汎用的なスキルであることを意識付け、今後の学習や生活への見通しを持たせる。</p>
--	---	---

4. 本時について

(1) 本時の目標及び評価

【本時の目標】

- ・安全に留意し、提示された手順に従って、適切に肥料を計量し、散布することができる。
- ・自分の役割を理解し、互いに声かけや協力を行いながら、追肥作業に主体的に取り組むことができる。
- ・作業中に疑問や困ったことが生じた際に、周囲に働きかけ、協力して解決しようとすることができる。

【評価規準】

評価基準◎	評価基準○	評価基準△	評価方法
安全に留意し、提示された手順に従って、適切に肥料を計量し、散布することができた。自分の役割を理解し、常に他者と協力しながら、主体的に追肥作業に取り組むことができた。作業中に生じた疑問や困り事を自ら周囲に働きかけ、協力して解決しようとすることができた。	安全に留意し、提示された手順に従って、おおむね適切に肥料を計量し、散布することができた。自分の役割を理解し、声かけを促されたり、支援を得たりしながら、追肥作業に取り組むことができた。作業中に生じた疑問や困り事を、教員の促しや支援によって周囲に伝え、解決しようとすることができた。	安全に留意することが難しい場面が見られたり、提示された手順通りに作業を進めることが難しかったりした。自分の役割を理解するのに時間を要し、教員の支援がなければ協力して作業に取り組むことが難しかった。作業中に困り事があっても、自分から働きかけることができなかった。	観察、作業記録、教員による聞き取り

(2) 本時の展開

過程	活動内容	指導上の留意点
導入	<p>・前時の振り返りを行い、今日の作業内容(追肥)と本時の目標を確認する。
・今日の役割分担を再確認し、各</p>	<p>・生徒1には、視覚的に分かりやすい役割カードや作業工程表(絵カード等)を提示し、安心して活動に入り込めるよう</p>

	<p>自の担当や協力体制について意識を高める。
・追肥作業で使用する道具や肥料について、安全な取り扱い方や注意事項を確認する。特に、肥料の計量方法や散布時の注意点(直接触れない、目に入れないなど)を視覚教材を用いて丁寧に説明する。</p> <p>
・本日の作業の流れ(導入→実践→片付け→振り返り)を提示し、見通しを持たせる。</p>	<p>にする。
・生徒2には、短い言葉で指示を伝え、具体的な動作を交えながら説明することで、集中力を維持できるよう促す。活動への意欲を高める声かけも積極的に行う。</p> <p>
・生徒3には、丁寧な計量や道具の準備など、手先の器用さを活かせる役割に注目し、期待を伝えることで、自信を持って活動に参加できるよう促す。
・全員に、本時の目標を視覚的に提示し、共有する。作業安全に関する注意喚起は全員にしっかり伝わるように繰り返し行う。</p>
展開	<p>・**肥料の計量と準備**：各自の役割に応じ、肥料を正確に計量し、運搬しやすいように準備する。必要に応じて、計量用の容器やスコップを使い、こぼさないように注意しながら作業する。生徒間で声をかけ合い、計量した肥料を次の工程にスムーズに渡す。</p> <p>
・**追肥作業の実践**：計量した肥料を、前時に確認した適切な場所(植物の根元から少し離れた場所など)に散布する。生徒2には、肥料の運搬や土を混ぜる作業など、体を動かす役割を積極的に任せる。生徒3には、計量や特定の場所に丁寧に散布する役割を任せ、その器用さを活かす場面を設定する。生徒1には、作業手順書を確認しながら、全体の進行を意識してもらい、必要に応じて仲間に声かけを行う役割も担ってもらう。肥料が適切に散布されたかを確認し、必要であれば土と混ぜる作業を行う。</p> <p>
・**相互支援と課題解決**：作業中に肥料をこぼしてしまったり、どこに散布すれば</p>	<p>・**生徒1**：作業手順書(視覚的な指示書)を常に携帯させ、確認しながら作業を進められるようにする。ルーティン作業への集中力を活かし、計量や正確な散布を促す。困っている仲間がいれば、手順書を確認して教えるなど、リーダーシップを発揮する機会も与える。</p> <p>
・**生徒2**：集中が途切れないよう、肥料の運搬など、動きのある作業を多めに割り振る。適宜声かけを行い、作業の区切りごとに休憩や水分補給を促す。作業の成功体験をこまめに褒め、モチベーションを維持する。</p> <p>
・**生徒3**：細かい作業や正確さが求められる役割(例：特定の場所への正確な散布、肥料の計量最終チェック)を任せ、得意なことを活かせる場を提供する。寡黙な傾向があるため、困っている様子がないか表情や動きをよく観察し、必要に応じて「困ったことはない?」「大丈夫?」など、個別の声かけでサポートする。</p> <p>
・全員に安全確認(肥料が皮膚に触</p>

	<p>よいか迷ったりする場面で、生徒同士で声かけをしたり、教員に報告・相談したりして、協力しながら解決を図る。教員は、生徒間のコミュニケーションを促し、助け合いの場面を積極的に設定する。</p>	<p>れないか、道具の持ち方など)を随時行い、問題があればすぐに修正する。
・協働を促すために、例えば「生徒Aが計量したものを生徒Bが運ぶ」「生徒Cが散布した場所を生徒Aが確認する」など、具体的な連携が必要なタスクを設定する。
・作業の進捗に応じて、必要であれば教員が一部を実演して見せるなど、視覚的な支援を効果的に活用する。</p>
まとめ	<p>・**作業の片付けと清掃**：使用した道具の洗浄、整理整頓、肥料の片付け、作業場所の清掃を分担して行う。
・**本時の振り返り**：今日の追肥作業で「できたこと」「頑張ったこと」「気づいたこと」を一人ひとり発表する。特に「協力できたこと」「安全に気をつけたこと」「手順を守れたこと」に焦点を当てて振り返る。今日の作業を通して感じたこと、植物の変化への期待などを共有する。
・**次時への見通しと関連付け**：追肥後の植物がどのように変化するか、次回の観察を楽しむにする声かけを行う。今回の作業で学んだ「安全」「協力」「手順を守る」といったことが、今後の園芸作業だけでなく、他の作業学習や将来の生活、就労にどのように役立つかについて簡単に触れる。
・**教員からのフィードバック**：個々の生徒の頑張りが成長を具体的に認め、肯定的なフィードバックを与える。協働できた点や安全に配慮できた点などを全体に共有し、成功体験を強化する。</p>	<p>・生徒1: 作業の片付け手順も視覚的に提示し、最後まで見通しを持って活動できるようにする。振り返りでは、手順通りにできたことや、仲間と協力できた点について具体的に言葉で表現できるよう促す。
・生徒2: 片付け作業もこまめに区切り、短時間で達成感を味わえるようにする。振り返りでは、言葉で表現することが難しい場合、ジェスチャーや絵などを用いても良いことを伝え、安心して発表できる雰囲気を作る。
・生徒3: 片付けでは、その器用さを活かして道具の丁寧な手入れなどを任せる。振り返りでは、寡黙な傾向があるため、教員から「〇〇さんの〇〇が丁寧で助かったよ」など、具体的に頑張りを引き出す声かけを行い、自己肯定感を高める。
・振り返りの時間は十分に確保し、全員が自分の言葉で発表できる機会を設ける。
・生徒たちが話している内容を教員が要約し、共通の学びとして再確認することで、言語化の支援と定着を図る。</p>